

生誕100年 島山哲雄展

1926-2026

10/30(金)~11/8(日)

市拠点複合施設リウタ

わが夕張が誇る画家・島山哲雄さんが生まれて今年には100年になります。

1999年6月18日に72歳の生を終えるまでひたすら夕張の絵を描き続けました。

その作品は、石炭が発見され(1888年明治21)、人々を引き寄せ、働き暮らしてきた夕張百数

十年の歴史そのものです。

炭鉱(ヤマ)~社光に生まれ、炭住・ズリに抱かれ育ち、働いてきた眼差しは、

ふるさとの盛衰をスツチに、水彩画に、油絵の画面に深<息づいていきます。

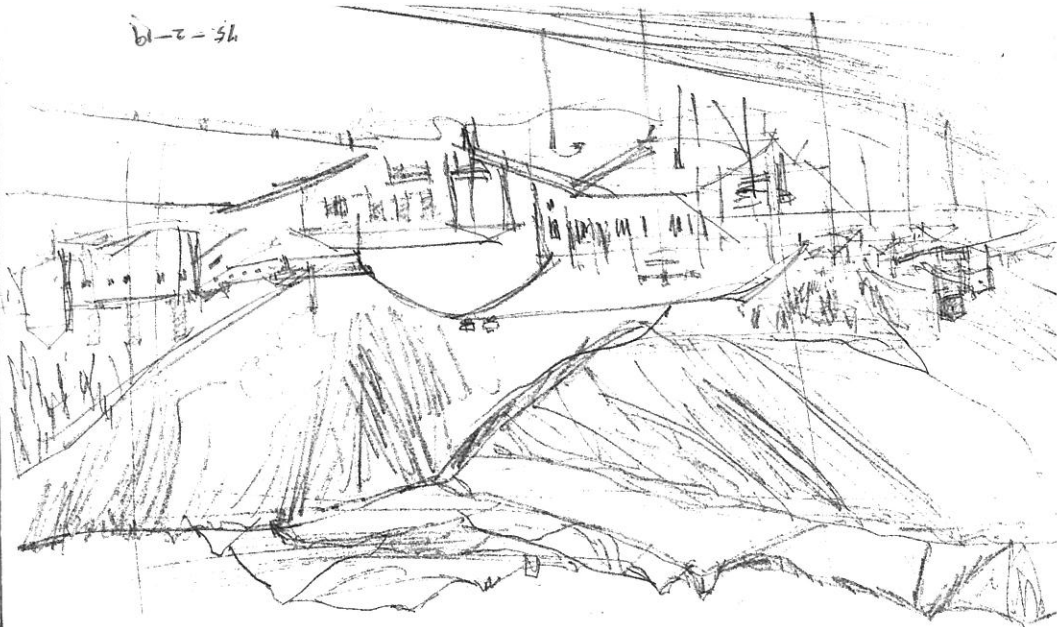
閉山し、人が去ってなお島山はこゝで暮らし、夕張の風景に対面、対峙してきました。

没後27年、生誕100年の今年、弟・島山健児さん(由仁町)から絵をお借りし、旧夕張市美術

館の収蔵作品とあわせて展示します。

美術館がな<なり展示空間に恵まれな<も、りすたの会場にてお待ちしております。

市民文化祭と同会期、ぜひ島山哲雄作品と対話されることを願っています。



95-2-19



1961.12.7 自宅にて

●おひたち 1926年(大正15)11月3日、夕張町斜坑の上(社光一区)で生まれる。父の忠雄は北炭夕張鉱

の坑内員、母みさは選炭工場で働<、6人弟妹の長男。社光地区は(石炭の大露頭)に近い一帯で、明

治中期から大勢が住み着いた地、シホロカベツ川が流れる山峡は社光、高松、福住、富岡、錦と呼ばれ、

大正初めには5~6千人が暮らしていた。

●絵の好きな少年 小学校5年の時(夕張第二尋常高等小学校)、日独伊三国同盟の締結を記念し全国

の小学生から絵を募集、島山少年の絵は見事に最優秀作品の60点に選ばれ、作品がパイプに送られた。

担任教師は谷岡蔵先生で道展に出品経験を持ち、「つ<し会」という図画クラブをつ<り、放課後の指

導や校内展を開<など、島山の絵の素養を育んだ最初の人物だった。

●炭鉱に勤め、絵を描き、道展へ 父に買ってもらったミラーの画集が宝物、小遣いをため水彩絵の

具と画用紙を買ひ絵を描<。15歳で父と同じ北炭夕張鉱業所で働き、夜は炭住自宅で花、壺、弟妹な

どを描き、休日は屋外で風景スツチをする日々。わずかな書物が頼りの独学。1930年(昭和5)に

発足した夕張市美術協会の展覧会が年に一度あり、美術報国隊の来訪もあって美術の空気に接する

機会があった。戦後1946年、鉱務課先輩、小林政雄(1917~2010)と出会い、油絵の勉強会や社内展

で研鑽を深める。47年第22回道展に油彩画(路の見える風景)を初出品入選。以後毎年道展に炭鉱

風景を出品し、夕張に島山ありと炭鉱画家の評価を高めてゆ<。

●炭鉱(ヤマ)を描いた50年 1971年、合理化で北炭を離職。石炭産業の斜陽化は進み、描<景觀が失

われてゆ<。1990年夕張から最後の炭鉱が消えたが、スツチスツチをもとに、炭住、坑口、発電所を

画面構成して描き、道展・夕張美術協会展に出品を続ける。無<なつたヤマの風景は、そこに暮らした

人々の証し(あかし)となり凝縮され、見る者に語りかけている。